

2018年5月2日

## スタンダードチャータードPLC - 中間経営ステートメント

スタンダードチャータードPLC(以下、「当行グループ」といいます。)は、5月2日付で、2018年第1四半期に関する中間経営ステートメント(IMS)を発表しました。別段の注記がない限り、すべての数値は特別要因調整後ベースで表示されており、比較の対象は2017年第1四半期の数字としています。

**当行グループ最高経営責任者のビル・ウィンターズは、第1四半期の業績について、以下のように述べています。**

「当四半期の業績に示された2018年の希望に満ちたスタートは、中期的に8%を超えるROE(株主資本利益率)を達成できるという2月時点の見通しに沿った軌道の上を、当行グループが着実に進んでいることを示唆しています。当行グループは、新規および既存の顧客へのサービスの向上を続けながら、確実かつ持続的な方法で、できる限り早期に、この目標を超えることを決意しています。」

### 戦略の実行と見通し

- 広い分野にわたって、収益の成長率は5~7%の中期的目標の上限水準に達しました。
- 投資による差別化が奏効したウェルスマネジメントとトランザクションバンキングの業績が好調でした。
- 先行投資の一巡により営業レバレッジはプラスに転じ、3%を上回っています。
- 13.9%の普通株式等Tier1(CET 1)比率とクレジットの質の改善により、当行グループの収益力の強化が示されました。
- 地政学的リスクは継続していますが、マクロ経済情勢は引き続き良好です。

### 第1四半期の業績ハイライト

- 特別要因調整後の税引前利益は13億ドルと、リターンの改善に重点を置いたことが奏効し、20%増加しました。
  - 法定ベースの税引前利益12億ドルには、主にプリンシパルファイナンスに関係する7,000万ドルの再編関連コストが含まれています。
  - 米ドル安の影響は、特別要因調整後および法定ベースの利益に対してはおおむねニュートラルでした。
  - 特別要因調整後の年間ROE(株主資本利益率)は、前年同期の6.3%から7.6%に上昇しました。
- 39億ドルの営業収益は7%増、為替変動の影響を除くと5%増となりました。
  - 2017年第1四半期の良好な市場環境を背景としたトレジャリー部門収益を除くと、収益は10%の増加となりました。
  - 年初の力強いスタートが3月に減速し、ファイナンシャルマーケットの収益は2%増加しました。
- その他の営業費用は22億ドルと5%増、為替変動の影響を除くと1%増となりました。
  - 当行グループは、期限まで9か月を残して、4年間で29億ドルのコストを削減するという目標の95%を達成しました。
  - いっそうのコスト削減により、成長の機会を開拓し、統制をさらに強化するための投資が可能になります。
- 2017年にいくつかの重要な規制が実施された後、当四半期の規制関連コストは2%減少しました。
- 当行グループの資産の質は前年同期より改善し、当四半期中安定的に推移しました。
  - IFRS9号に従って算出された減損費用は1億9,100万ドルと、2017年同期とほぼ同水準でした。

### バランスシートと資本

- バランスシートは広い範囲で拡大しました。
  - 顧客向け貸付金その他の金銭債権の純額は2,950億ドルと、前四半期比3%増加しました。
  - 顧客口座は4,180億ドルと、前四半期比1%増加しました。
- CET1比率は13.9%と2017年末から26ベースポイント上昇しましたが、これは主に利益の増加によるものです。
  - 企業へのエクスポージャーの一部にデフォルト時損失率(LGD)の下限を適用しても、CET1比率に重大な影響は及ばない見通しです。

## 業績サマリー

	18年 第1四半期 (百万米ドル)	17年 第4四半期 (百万米ドル)	17年 第1四半期 (百万米ドル)	前四半期比 改善/ (悪化) (%)	前年同期比 改善/ (悪化) (%)
<b>営業収益</b>	<b>3,873</b>	3,478	3,608	11	7
その他の営業費用	(2,166)	(2,283)	(2,069)	5	(5)
規制関連コスト	(303)	(366)	(309)	17	2
英国銀行税	-	(220)	-	n.m.	-
<b>クレジットコスト・税引前営業利益</b>	<b>1,404</b>	609	1,230	131	14
金融資産の純減損費用	(191)	(269) <sup>1</sup>	(198) <sup>1</sup>	29	4
その他減損費用	(24)	(66)	(53)	64	55
関係会社(損)益	68	3	66		3
<b>特別要因調整後の税引前(損)益</b>	<b>1,257</b>	277	1,045	354	20
再編関連コスト	(70)	(120)	(55)	42	(27)
その他の項目	-	(270)	-		n.m.
<b>法定ベースの税引前(損)益</b>	<b>1,187</b>	(113)	990		20

<sup>1</sup> IAS39号に基づき作成・開示されています。P7の「表示の基準」をご参照ください。

営業収益は前年同期比7%増、為替変動の影響を除くと5%増加しました。当行グループが2015年以降特に差別化に力を入れていた分野からの収益(トランザクションバンキング、住宅ローン、ウェルスマネジメント、預金など)は、全体で18%増と大幅に増加しています。リターン向上の取組みを続けてきたクレジットカード、個人ローン、コーポレートファイナンスからの収益は安定し、2%の増加を示しました。ファイナンシャルマーケット事業の収益は、年初に好調だった市場環境が3月に減速した後、2%増加しました。財務収益では、2017年第1四半期に計上された利益が当四半期に実現しなかったことの影響を受けました。

その他の営業費用は5%増、為替変動の影響を除くと1%の増加と、支出の厳しい管理が続いたことが示されています。規制関連コストは、2017年末にいくつかの重要な規制が実施された後、前年同期比で2%減、前期比で17%減少しました。当行グループは、2015年11月に設定した、4年間で総コストを29億ドル削減するという目標の95%を達成し、2018年末までにこれを上回る見通しです。このコスト削減によって節約された資金は、成長機会を捉え当行グループの収益力をいっそう強化するための投資に活用されます。

金融資産の純減損費用は、前年同期の減損費用と同程度の水準、韓国の規制変更に伴うリテールバンキング部門の一時的引当金が計上された第4四半期からは29%減となりました。この改善は広範囲にわたり、香港、中国、シンガポールのマクロ経済指標の好転に加え、投資適格エクスポージャーの割合が高まったことが寄与しました。

その他減損費用は、主に航空機リース資産に関するものでした。

関係会社(損)益は、当行グループのインドネシアにおけるジョイントベンチャーと中国における関係会社投資の業績が引き続き改善したことにより、3%増加しました。

この結果、特別要因調整後の税引前利益は、前年同期比20%の増加となりました。法定ベースの税引前利益には、年末にかけて減少が見込まれる、主にプリンシパルファイナンスに関係する再編関連コストが含まれています。

## 顧客セグメント別収益

	18年 第1四半期 (百万米ドル)	17年 第4四半期 (百万米ドル)	17年 第1四半期 (百万米ドル)	前四半期比 改善／ (悪化) (%)	前年同期比 改善／ (悪化) (%)
法人営業部門	1,742	1,649	1,623	6	7
リテールバンキング部門	1,339	1,186	1,174	13	14
コマーシャルバンキング部門	351	335	327	5	7
プライベートバンキング部門	144	130	117	11	23
その他の項目	297	178	367	67	(19)
<b>総営業収益</b>	<b>3,873</b>	<b>3,478</b>	<b>3,608</b>	<b>11</b>	<b>7</b>

法人営業部門の収益の伸びには、顧客の営業口座の平均残高増加率が20%を超えたトランザクションバンキングの好調が続いていること、および、ファイナンシャルマーケットの業績の若干の改善が反映されています。

リテールバンキング部門の収益が14%改善した要因としては、特に香港における、プライオリティ顧客からの増収によるウェルスマネジメントと預金の収益増、および個人向け銀行業務からの収益増の兆候などがあげられます。

コマーシャルバンキング部門における3億5,100万ドルへの7%の増益の要因は広範囲にわたり、ファイナンシャルマーケットの収益の若干の減少をトランザクションバンキングとコーポレートファイナンスの改善が相殺しました。

プライベートバンキング部門の収益は、ウェルスマネジメントの良好なモメンタムによって23%押し上げられました。同事業ではシニアリレーションシップマネジャーが増員され、第1四半期には純額で7億ドルを超える新規資金が集められました。

その他の項目の収益は前年同期比19%減少しました。2017年第1四半期の良好な市場環境下で計上された約1億ドルの実現益を除くと、トレジャリー部門収益には2017年中の金利上昇がプラスに働き、11%増となりました。

## 地域別収益

	18年 第1四半期 (百万米ドル)	17年 第4四半期 (百万米ドル)	17年 第1四半期 (百万米ドル)	前四半期比 改善／ (悪化) (%)	前年同期比 改善／ (悪化) (%)
中華圏・北アジア	1,564	1,411	1,381	11	13
ASEAN・南アジア	1,075	932	1,006	15	7
アフリカ・中東	684	677	686	1	(0)
ヨーロッパ・米州	441	414	435	7	1
その他の項目	109	44	100	148	9
<b>総営業収益</b>	<b>3,873</b>	<b>3,478</b>	<b>3,608</b>	<b>11</b>	<b>7</b>

中華圏・北アジアにおける13%の収益増には、特に、ウェルスマネジメントと預金の堅調の恩恵を享受し続けている香港とリテールバンキング部門における広範な伸びが寄与しています。

ASEAN・南アジアの収益増は、ウェルスマネジメント、トランザクションバンキング、リテール商品にわたって2ケタ増益を達成したことによるものです。

アフリカ・中東からの収益は、ファイナンシャルマーケットの減収によってトランザクションバンキングとウェルスマネジメントの業績改善が相殺され、安定的に推移しました。

ヨーロッパ・米州の収益は、ファイナンシャルマーケットの減収の影響を受けて1%の増加となりました。同地域はファイナンシャルマーケットビジネスの中心であるため、特に業界全体のボラティリティの変動の影響を大きく受けました。

なお、その他の項目からの収益は、2017年度第4四半期のヘッジ会計の特別調整を除くと、前年同期比、前四半期比の両方で安定的に推移しました。

## グループのクレジットの質と流動化ポートフォリオ

	18年3月31日 (IFRS9号)			18年1月1日 (IFRS9号)		
	通常事業 (百万米ドル)	流動化ポート フォリオ (百万米ドル)	合計 (百万米ドル)	通常事業 (百万米ドル)	流動化ポート フォリオ (百万米ドル)	合計 (百万米ドル)
<b>貸付金その他の金銭債権</b>						
顧客向け貸付金その他の金銭債権総額	299,111	1,709	300,820	288,859	2,248	291,107
減損引当金純額	(4,899)	(1,178)	(6,077)	(4,854)	(1,626)	(6,480)
顧客向け貸付金その他の金銭債権純額	294,212	531	294,743	284,005	622	284,627
<b>クレジットの質</b>						
信用減損(ステージ3)ローン	6,743	1,688	8,431	6,615	2,226	8,841
信用減損(ステージ3)引当金	(3,629)	(1,178)	(4,807)	(3,662)	(1,626)	(5,288)
信用減損ローン純額	3,114	510	3,624	2,953	600	3,553
担保考慮前/後の不良貸付貸倒引当率(%)	54 / 76	70 / 88	57 / 78	55 / 78	73 / 88	60 / 80
CG(行内信用格付け)12口座 <sup>1</sup>	1,336	21	1,357	1,483	22	1,505
リスク加重資産	279,461	744	280,205	278,933	815	279,748

<sup>1</sup> CG12口座については7ページの説明をご参照ください。

当行グループの全体的なクレジットの質は、より細分化されたリスク選好度の基準に基づいて引き続き質の高いオリジネーションに注力したため、前年同期比で改善し、前四半期比では安定的に推移しています。地政学的な不透明感が続く情勢において当行グループは注意を怠っていませんが、今のところ新たなストレス領域は生じていません。

### 通常事業

通常事業の信用減損(ステージ3)ローンの総額は、2018年1月1日から1億2,800万ドル増加し、CG12口座は1億4,700万ドル減少しました。担保考慮前/後の不良貸付貸倒引当率は引き続き、概ね安定的に推移しました。

### 流動化ポートフォリオ

信用減損ローンの総額は、該当するポートフォリオのエクスポージャーの処分が進んだため、2018年1月1日時点から5億3,800万ドル(約1/4)減少しました。担保考慮後の不良貸付貸倒引当率は88%と横ばい、CG12口座は安定的に推移しました。

### バランスシート、資本およびレバレッジ

	18年3月31日 (百万米ドル)	17年12月31日 (百万米ドル)	17年3月31日 (百万米ドル)
<b>バランスシート</b>			
顧客向け貸出その他の金銭債権の純額	294,743	285,553	269,740
うちリバースレポ契約に基づく貸出その他類似の貸出金	36,980	33,928	28,354
顧客口座 <sup>1</sup>	417,796	411,724	397,564
うちレポ契約に基づく借入その他類似の借入金	39,265	35,979	33,578
預貸率(%)	70.5	69.4	67.8
<b>資本</b>			
普通株式等Tier 1比率(%)	13.9	13.6	13.8
リスク加重資産	280,205	279,748	273,303
<b>レバレッジ</b>			
英国レバレッジ率(%)	5.9	6.0	5.9

<sup>1</sup> 損益を通じて公正価値で保有される残高を含みます。

当行グループのバランスシートは、依然として盤石かつ流動性が高く、十分に分散されています。

2017年12月31日以降、顧客向け貸付金その他の金銭債権の純額は3%増加し、この増加の約3分の1はリバースレポ取引、残りはコーポレート・ファイナンスその他のレンディングによるものでした。顧客口座は2017年12月31日以降、レポ取引、およびリテールバンキング部門におけるクオリティの高い当座預金と貯蓄預金の伸びを反映して、1%増加しました。その結果、第1四半期末の当行グループの預貸率は、2017年12月31日時点の69.4%から70.5%に上昇しました。

当四半期中、当行グループのリスク加重資産は概ね横ばいに推移しましたが、利益の計上により、CET1比率は13.9%と、2017年12月31日から26ベースポイント上昇しました。以前に開示されたように、当行グループは健全性監督機構(PRA)からの指摘に基づき、社内格付モデルのデフォルト時損失率の下限を変更する予定です。企業へのエクスポージャーの一部に関連するこれらの変更の時期と正確な影響は不透明ですが、CET1比率に重大な影響が及ぶことはない見込みです。

#### **まとめと今後の見通し**

特別要因調整後の収益の好調、安定したクレジットの質、およびコスト管理に対する継続的な取組みにより、第1四半期の収益性は前年同期比で大幅に改善しました。この好業績は、収益性の高い成長に寄与するマクロ情勢が続く中で、利益率向上を¥目指して講じられてきた経営施策の成果といえます。

地政学的リスクが継続していることは懸念要因ですが、当行グループの収益力は強化されており、競争力を高めながら、顧客へのサービス改善に引き続き注力しています。

詳細につきましては、以下の担当者にご連絡ください。

Mark Stride, Head of Investor Relations +44 (0) 20 7885 8596  
Julie Gibson, Head of Media Relations +44 (0) 20 7885 2434

追加情報 - 四半期毎の特別要因調整後営業収益（百万米ドル）

顧客セグメント別	2018 Q1	2017 Q4	2017 Q3	2017 Q2	2017 Q1	2016 Q4	2016 Q3
法人営業部門	1,742	1,649	1,629	1,595	1,623	1,729	1,596
リテールバンキング部門	1,339	1,186	1,252	1,222	1,174	1,167	1,186
コマーシャルバンキング部門	351	335	338	333	327	305	323
プライベートバンキング部門	144	130	128	125	117	110	125
その他の項目	297	178	242	339	367	222	235
<b>総営業収益</b>	<b>3,873</b>	<b>3,478</b>	<b>3,589</b>	<b>3,614</b>	<b>3,608</b>	<b>3,533</b>	<b>3,465</b>

地域別	2018 Q1	2017 Q4	2017 Q3	2017 Q2	2017 Q1	2016 Q4	2016 Q3
中華圏・北アジア	1,564	1,411	1,414	1,410	1,381	1,329	1,310
ASEAN・南アジア	1,075	932	937	958	1,006	993	1,005
アフリカ・中東	684	677	700	701	686	653	669
ヨーロッパ・米州	441	414	378	374	435	464	383
その他の項目	109	44	160	171	100	94	98
<b>総営業収益</b>	<b>3,873</b>	<b>3,478</b>	<b>3,589</b>	<b>3,614</b>	<b>3,608</b>	<b>3,533</b>	<b>3,465</b>

製品別	2018 Q1	2017 Q4	2017 Q3	2017 Q2	2017 Q1	2016 Q4	2016 Q3
トランザクションバンキング	916	876	856	812	785	744	722
トレード	304	298	306	296	297	295	300
キャッシュマネジメント/カストディ	612	578	550	516	488	449	422
フィナンシャルマーケット	724	536	663	637	708	780	727
外国為替	250	208	238	272	225	272	249
金利	177	74	172	127	162	147	187
コモディティ	51	35	42	32	48	53	59
クレジット/資本市場	106	85	90	82	119	97	112
キャピタル・ストラクチャリング・ディストリビューション・グループ	55	51	72	74	82	104	13
その他の金融市場	85	83	49	50	72	107	107
コーポレートファイナンス	331	466	325	360	325	401	378
レンディング/ポートフォリオ管理	137	111	128	122	135	130	123
プリンシパルファイナンス <sup>1</sup>	-	-	-	-	-	(20)	(30)
ウェルスマネジメント	539	397	488	435	421	377	387
リテール商品	943	916	891	905	871	900	925
カード/個人ローン/無担保ローン	351	334	349	340	344	370	394
預金	394	366	344	363	346	326	333
住宅ローン/自動車ローン	176	196	179	185	164	185	178
その他のリテール商品	22	20	19	17	17	19	20
財務	290	200	255	339	349	198	233
その他 <sup>2</sup>	(7)	(24)	(17)	4	14	23	0
<b>総営業収益</b>	<b>3,873</b>	<b>3,478</b>	<b>3,589</b>	<b>3,614</b>	<b>3,608</b>	<b>3,533</b>	<b>3,465</b>

<sup>1</sup> 2016年に当行グループはプリンシパルファイナンス事業から撤退するという決定を開示し、2017年1月1日からは、損益は再編費用として取り扱われ、特別要因調整後の業績から除外されています。

「その他」には、2018年以降グループ特別資産管理(GSAM)部門の収益が含まれます。2017年以前の数値は修正再表示されていません。

## 表示の基準

本中間経営ステートメントは、2018年3月31日現在、または2018年第1四半期におけるスタンダードチャータードPLCおよび子会社(当行グループ)の業績を記載しています。

IFRS9号は2018年1月1日より適用され、当行グループは比較情報を修正再表示していません。従って、2018年1月1日より前の金額はIAS39号に基づいて作成され、開示されています。この影響が主に表れるのは信用リスク引当金で、IAS39号では発生損失アプローチ、IFRS9号では予想信用損失アプローチを用いて算出されます。

## 当局による調査

2017年アニュアルレポートの259ページに詳述したように、当行グループは、米国および英国の当局による、過去の問題の調査へに協力しており、その解決に向けて継続的に協議を行っています。これらの問題の解決によって財務的に重要な影響が発生する可能性があり、当行グループは引き続きこの解決に注力しています。

## 再編その他の項目

当行グループの法定ベースの業績は、資本性の損益、経営目標の達成のために行われた投資取引の成果、当四半期の当行グループの通常の利益に関連した、重要性の高い他の不定期かつ例外的な項目、ならびに、経営者および投資家が通常、各期の業績を評価する際に確認する項目によって、調整されます。これらの調整の内容は以下のとおりです。

	18年第1四半期		17年第4四半期		17年第1四半期	
	再編関連コスト (百万米ドル)	その他の項目 (百万米ドル)	再編関連コスト (百万米ドル)	その他の項目 (百万米ドル)	再編関連コスト (百万米ドル)	その他の項目 (百万米ドル)
営業収益	(73)	-	52	50	(28)	-
営業費用	(27)	-	(156)	-	(40)	-
金融資産の減損費用	29	-	(61)	-	(5)	-
その他減損費用	1	-	5	(320)	0	-
関係会社利益	-	-	40	-	18	-
<b>税引前損失</b>	<b>(70)</b>	<b>-</b>	<b>(120)</b>	<b>(270)</b>	<b>(55)</b>	<b>-</b>

当行グループは、特別要因調整後の利益、CG12口座、および不良貸付貸倒引当率を含む多くの代替的な業績評価指標を、業績および財務状況に関する説明に使用しています。これらは以下のように定義されます。

## CG12口座

現在は債務を履行しているものの、潜在的な信用力の脆弱性を示し、将来減損の対象となりうる顧客口座です。ただし現時点では元本または支払利子に係る損失は予想されていないため、支払利子は当行グループの収益に含まれています。行内信用格付に関する詳細は2017年度アニュアルレポートの126～127ページに、クレジットの質の一覧表は125ページに掲載されています。

## 不良貸付貸倒引当率

IFRS9号における不良貸付貸倒引当率は、ステージ3のローンがステージ3の減損引当金によってどの程度カバーされているかを表しています。